

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4673100113
法人名	医療法人 木村外科内科
事業所名	グループホーム きむら
訪問調査日	平成 20 年 5 月 26 日
評価確定日	平成 20 年 6 月 30 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4673100113
法人名	医療法人 木村外科内科
事業所名	グループホーム きむら
所在地	鹿児島市石谷町2105番地3号 (電 話) 099 - 278 - 0058

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年5月26日	評価確定日	平成20年6月30日

【情報提供票より】平成20年5月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤 12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	14.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000~30,000円	その他の経費(月額)	21,000円 (管理費)
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 300 円	
	夕食 400 円	おやつ 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月8日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.1 歳	最低 78 歳	最高 100 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木村外科内科・是枝歯科医院 よつもと歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外にある石谷町県道沿いに医療法人木村外科内科があり、ホームはその病院の敷地内の奥側に位置し、奥側の地形は高台になっている。ホームのダイニングホール、談話室、居室から山々に囲まれた住宅など眼下に一望でき、季節折々の景観が楽しめる。建物は明るく広々した落ち着ける造りで入居者・職員は日々ゆっくり、穏やかに過ごしている。母体の医療機関が側にあることで、入居者は安心して生活している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度外部評価に於いての改善項目 1. 家族への報告では毎月ホーム便りの作成がなされ家族に詳しく様子が伝えられ改善された。1. 運営に関する家族の意見の反映 1. 職員を育てる取り組み 1. 同業者との交流を通じた向上の3項目については対策を検討中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	今回の自己評価に対する運営者、管理者、職員の取り組み状況では全職員がもっと積極的に意識を持って取り組んでいけるよう、職場内研修として活かす等全職員が取り組みが出来るよう工夫を望む。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4)
重点項目	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、ホームの状況、ホームの行事、外部評価の報告、地域の行事等の報告、要望、意見交換等している。会議の報告は職員に報告されサービスに活かされている。メンバーの行政からの出席率が劣るので、適正な意見を受ける為には呼びかけの促進を望む。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	前年度の改善問題点でもある家族の意見を聞く努力は意見箱の設置、面会時の積極的な話し合い等向えるが具体的な声は聞かれていない。家族の意見や苦情を聞く為の改善策として、新たに家族会に代わる集まりの機会を計画されているので期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームの野菜づくりのボランティアの方や敷地内のデイケアの利用者、入居者の知人が日常ホームへ訪問している。地区の子供会と七夕祭りなどで交流があり、運営推進会議の地区住民代表の情報により地域行事への参加、又ホーム行事への呼びかけも行い地域との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は平成16年開設当初の「家庭的な環境の下」という考え方でつくられた理念である。	○	グループホームが地域密着型サービスに移行した現在の考え方(家庭的な環境と地域住民との交流の下で)に基づいた理念に検討されることを望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々のミーティングや業務の中に於いても、常に理念を意識して気になる点はその都度話し合い、理念を共有して日々取り組んでいる。意識確認の為玄関入り口、談話室、職員トイレに理念が明示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所主催での年1回のバーベキュー大会は地域の住民、家族も参加している。事業所の餅つき大会、野菜づくりのボランティア受け入れ、敬老の日は地区の老人会からの訪問、地域子供の七夕飾りの手伝い等を通して地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が中心になり自己評価作成にあたり、項目内容によって職員に確認して作成している。前年度外部評価の改善課題について改善されたものや、今後も引き続き改善に取り組むものもある。	○	自己評価作成にあたっては、介護職員も直接関わりを持って取り組みが出来るよう、一人ひとり項目の自己評価を行い、意識の向上に繋がるよう活用されることを望みます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成19年5月に第1回を開催し、2ヶ月に1回開催して入居者の状況やサービスの内容報告、外部評価の改善課題、要望や意見を聞いたり話し合っている。運営推進会議での報告は月1回の全体会議で報告し、職員全員で意識し、サービスに活かしている。	○	会議のメンバーには鹿児島市職員、包括支援センター職員等メンバーに入っているが、会議では毎回の出席に至っていない。メンバーの方にそれぞれの立場からの意見をもらうため運営推進会議の意義や役割を十分理解してもらい積極的に参加してもらえよう働きかけて欲しい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎年受け入れている介護相談員については、最近では平成20年5月9日に受け入れしてサービスに活かしている。鹿児島市松元支所の行政窓口にも出かけて申請や運営サービス課題を相談している。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は月1回ホーム便りを作成し、ホームの行事、日々の活動状況、職員の異動等を伝えている。便りの1部空欄には、その時々担当者がより詳しく個別に健康状態や様子等書き込みをして個々にあわせた報告もしている。遠くの家族には金銭出納帳のコピーも一緒に送っている。近くの家族には窓口にて金銭出納帳で確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所では現在家族会は無い為、運営に関する家族の意見を引き出す場としては、運営推進会議である。その他玄関の入り口に意見箱を設置したり、ホームに面会に見えたときは積極的に話しかけるようにして、意見を引き出すようにしているが、なかなか意見はでない。意見があればミーティングで取り上げ運営に反映させる仕組みはある。	○	事業所は年1回のバーベキュー大会に家族が参加する機会を利用して、会の前後の時間を利用して、家族会に変わる運営に関する意見をもらう場として、計画している。取り組みを実現されることを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動の影響を回避する為、2ユニットの朝の体操、散歩、園芸作業を合同で行う機会を設けている。新人の職員が入職した場合1日の流れの中で挨拶を繰り返し先ず顔から覚えてもらうようにして自然に馴染みダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修はマニュアルにそって能力の差に応じた指導をしている。業務の実習を段階を踏んで終了する。母体病院の研修や外部研修にも内容に応じて出席者を決めて、報告することで全員が周知できるようにしている。	○	外部研修だけに頼らず職員の研修はホーム独自に年間計画を立てられ段階的に応じた学習をすることで、全職員の質の向上に結び付けて欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や計画作成担当者は近隣のグループホームとの交流はあるが、職員に於いては交流の機会はない。	○	事業所は今後同業者の職員の交流の取り組みについても訪問や招待が出来るよう計画していきたい意向がある。是非実現されて交流を通じることでサービスの質を向上させて欲しい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方が病院からの場合、毎日おやつ時に事業所に遊びに来ていただき馴染んでから入居してもらっている。家から入居の方は人によって見学期間(早い人で2～3日、長い人で1ヶ月)、に差があるがいずれも馴染んでから入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者は人生の大先輩であることを念頭に置き、日常の関わりの中で料理の味付け、石路の皮むき、包丁の研ぎ方、昔話を教わる等お互いに支えあい過ごしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向は入居者の今までの生活、環境をアセスメントし、本人から聞き取りが可能であれば日常の会話から把握している。会話の出来ない人は家族から今までの生活、環境の話聞いて、生活の中に於いての行動、表情を参考に把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の本人、ご家族からアセスメントを行い、希望の課題を重視し、職員は入居者の日々の生活の関わりから、必要な情報を引き出し、関係者と話し合いそれぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成して、家族から同意をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアカンファレンスをし、3ヶ月に1回モニタリングを行い介護計画の見直しをし、家族の同意を得ている。急な変化があった場合には、その都度家族と話し合い、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、通院や送迎、受診介助等必要に応じた支援がなされている。医療連携体制を活かしグループホームでの暮らしが継続するよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診や通院はかかりつけ医の指示で必要に応じて行われている。眼科、歯科等他の医療機関とも連携をとり適切な医療が受けられるよう支援している。基本的に他の医療機関受診は家族から付き添ってもらっているが、事情によっては職員が代行することもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	平成19年11月より医療連携体制をとり終末期に対しての体制を整えている。入居時に医療加算の同意書を記名してもらい、重度化対応終末ケア対応指針が入っている。重度化や終末期に対してはご家族、主治医、職員を交え話し合い、全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者のプライバシーに関しての書類の扱いや言葉かけの対応は全員周知している。事業所は従業者との雇用契約に秘密保持の誓約書を作成するなどプライバシー確保の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が過去に暮らされてきた生活ペースを大切に考えて、早起きの人、部屋でゆっくり食事したい人、朝入浴したい人、お手伝いの好きな人、買い物に行きたい人等日々その人らしい暮らしが出来るよう支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が作成されているが、嗜好に応じ、肉を魚に変更したり柔軟に対応している。職員は入居者と一緒に下準備から下膳までの一連の作業を行って、入居者の持てる力を活かしている。入居者は自宅での使い慣れた茶碗、湯のみ、箸を使用しながら、職員と同席で、会話の弾む楽しい食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、入浴時間に捉われることなく、本人の希望に応じた支援がなされている。入浴にたがらない人に対して、職員は本人の好きなことに付き合っ気分が乗った機会を捉え納得した上で入浴の誘導をする等工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの能力や希望にそって食事の準備、片付け、カレンダーめくり等役割を持つことで生活の張り合いが持てるよう支援している。又好きな歌、踊り、買い物、美容院行き、本読み等その人の楽しみや気晴らしを見つけて喜びの日々が過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は入居者へ声かけをして、希望にそって外出支援をしている。戸外でレクリエーションをしたり、散歩や買い物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての出入り口は鍵はかけていない。駐車場に隣接しているため、ホールから見えにくい危険な出入り口には、センサーがつけられ、事務所のカウンターでどのドアが開いたかキャッチできる。職員は即時対応して、入居者の意向に副って同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を行い避難経路の確認をしたり、消火器の使用方法的訓練をしている。緊急連絡網も整備し、万一の災害に備え水、食料の備蓄をしている。	○	グループホームで夜間想定避難訓練を自主訓練して欲しい。繰り返し行うことで、職員一人ひとりが自信をもって夜勤できるようになることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフは1日のおやつと食事のカロリー、栄養バランスを考え献立を作成し、毎週体重測定を行い、摂取量記録で栄養状態を把握している。医師から食事の指示のある人には指示に従っている。水分量の記録は医師の指示のある人のみ記録し、他の人は1日の大まかな目安で摂取量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひとつの玄関を中心に2ユニットが左右対称の間取りの造りで、ダイニングホールは明るくテラスが付いている。眼下の景色は素晴らしい。9居室の中心部に畳敷きの談話室があり、ここにもテラスが設けられ落ち着いた雰囲気ですぐに過ごしやすい場所である。玄関やダイニングホールは花や鉢植えが飾られ季節感を採り入れて居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は6畳と8畳部屋があり、各部屋はベッドとタンスが備え付けてある。それ以外の生活用品は馴染みの使い慣れたもの（絨毯、電気コタツ、家族用のテーブルや椅子、テレビ、時計、茶櫃等）を持ち込みそれぞれ居心地良く過ごせる工夫がなされている。職員は部屋の模様替えの要望にも快く応じている。		